



認知症作業療法を再考する  
～評価という原点に立ち戻って～

講師：村島 久美子

所属：医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック

「認知症作業療法」と聞いて、何を思い浮かべるだろうか。リアリティ・オリエンテーション？ 回想法？ 園芸？ アクティビティ？ 運動や歩行訓練？ ADL 訓練や IADL 訓練？ これら列挙したものは作業療法ガイドラインに掲載されており、現在もさまざまな医療機関や施設で実施されている。しかし、これらを実践するだけで個々のクライアントに適した認知症作業療法は提供できているだろうか。

2022 年現在、日本の高齢化率は 28.9%、75 歳以上の後期高齢者は 14.9%であり、認知症者は 700 万人を超えたと言われている。私たち作業療法士 (Occupational Therapist : 以下 OT) もクライアントとして、時にはクライアントの家族として認知症の人に出会うことが増えており、どの領域に所属していても認知症の人との関わりが必要とされている。しかし、認知症という診断名だけで OT を処方されることが少なく、主疾患への治療を優先せざるを得ないことが多い。そのため、認知症を有する人に対してどのようにどのようにアプローチするべきか戸惑いが生じやすい。

認知症の人への作業療法を考える際、プログラムの内容に着目しがちであるが、ベースである評価が適切に行なえているかという点に着目することも重要である。なぜなら、OT の特徴は他職種が持ちえない視点で評価を行えることでクライアントの生活障害を考えることができるからである。具体的には、作業工程分析である。OT は生活行為一つひとつに着目し、その行為を構成する工程を分けつつ、各工程に必要な能力を見極める。そのうえで、「何が」原因でひとつの工程か遂行ができないのか、という視点で行為を考えることができる。また、作業分析した結果と疾患特異的な要因とを掛け合わせながら要因分析したものを、認知症作業療法プログラムに反映できることも OT の強みである。

当日は、演者が他職種と働くことで得た OT らしい評価とプログラムへの結び付けについて事例を用いながら紹介したい。

## 略歴

---

氏名 村島久美子（むらしまくみこ）

現職 医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック  
世田谷区認知症在宅生活サポートセンター

### 【学歴・職歴】

2004年3月 長崎医療技術専門学校卒

2004年4月 医療法人社団心和会 新八千代病院

その他 外来リハビリテーション、通所リハビリテーション、回復期リハビリテーション病棟勤務を経て

2013年8月 世田谷区認知症初期集中支援チーム事業従事

2016年4月 現職に至る

### 【主な活動】

日本作業療法士協会制度対策部認知症班

東京都作業療法士会 認知症の人と家族の生活支援委員会

千葉県作業療法士会 教育部、東葛南部ブロック委員

### 【論文・著書】

- 「地域で継続して生活するために 認知症初期集中支援における OT の役割」 作業療法ジャーナル 53 巻 11 号
- 「世田谷区における認知症初期集中支援チームにかかわって」 地域リハビリテーション 12 巻 12 号

### 【主な教育活動】

- ・千葉県立保健医療大学 非常勤講師

### 【主な所属団体】

- ・日本作業療法士協会（東京都作業療法士会、千葉県作業療法士会）
- ・認知症ケア学会
- ・日本老年精神医学会